瀬谷中だより　４月号　　平成３１年４月５日

＜学校教育目標＞
○ 自ら学ぶ力の育成と基礎学力の定着　〔知〕
○ 他者を思いやり、礼儀や規律を重んじる態度の育成　〔徳〕
○ 生命を尊ぶ健康な心と体の育成　〔体〕
○ 社会に貢献し、様々な人と関わり合う態度の育成　〔公・開〕

発　行　横浜市立瀬谷中学校
校　長　熊野　一隆
副校長　村上　直幸
住　所　瀬谷区中央５－４１
TEL 301-0096　FAX 301-0099

艱難汝を玉にす

校長　熊野　一隆

いよいよ平成３１年度がスタートしました。とは言っても、平成は今月のみで、来月からはみなさんもご存知の通り「令和（れいわ）」という元号に変わります。庭内の景色に目をやれば、まだ寒さも続くなか、桜も満開を迎え、本日の午後から行われる入学式を寿ぐような鮮やかな色彩で新入生を迎えられることと思います。みなさんに新年度を迎えるにあたり、一つ伝えたいことがあります。

江戸時代末期から明治にかけてアメリカ合衆国と日本の橋渡しをし、日本の近代化に大きく貢献したジョン万次郎という人がいます。1827 年土佐の中ノ浜に生まれたジョン万次郎は、14 歳で初めて漁に出た時に嵐に襲われました。風は面（おもて）もむけられないほど強く吹きつけ、帆を上げることもできなかったのです。湧きあがる潮煙（しおけむり）のため方角さえも分からなくなり、吹き殴る風に船は矢のように速く押し流されました。そして、万次郎たちは１週間漂流してしまいます。用意してあった食料もなくなり、自分たちが釣った魚を食べて飢えをしのぎました。飲み水もなく「霙（みぞれ）を拾い集め口に入れ、袖口の氷柱（つらら）を食べた」あり様です。５人の漁師と万次郎は、この状況の中でも諦めず、必死で生きようと声を掛け合いました。嵐もおさまり、何とか無人島にたどり着くことができましたが、決して安穏とできる状況ではありませんでした。無人島にたどり着いて 5 ヶ月後にアメリカの捕鯨船（ほげいせん）に救出され、ハワイ（オアフ島）に上陸します。現地の政府は、５人の生活を見てくれることになりましたが、救出してくれたアメリカの捕鯨船ジョン・ホーランド号船長ホイットフィールドは、物覚えが良く快活で気が利く万次郎をアメリカに連れていきたいと提案します。もし、みなさんが万次郎の立場だったらどうしますか。ただでさえ、海に漂流し、無人島に半年間も残され、救出され連れていかれたのは、まったく見知らぬ土地のハワイです。この間家族とも離れ離れになり、大変に心配しているはずです。遭難した五人（ジョン万次郎以外）の大人は、ホーランド船長の提案の判断をあぐね、最後は本人の意思に任せることにしたのです。この時本人は、「アメリカに渡って、新しい文明の空気を吸いたい」と答え、アメリカに同行する提案を承諾します。15 歳の少年がアメリカ本土に行きたいと駆り立てたエネルギーは一体何だったのでしょうか。15 歳といえば中 3 になる年齢と同じですね。

瀬谷中学校の教育目標に「社会で飛躍する子どもたちの育成」という文言があります。社会で飛躍できる子ども達とは、どんな子どもなのでしょうか。どんな「力」を育んでいけばよいのでしょうか。ならば、どのようにすればその「力」を身につけていくことができるのでしょうか。『若い時の苦労は買ってでもせよ』と昔から言われています。難しい言葉では、『艱難汝（かんなんなんじ）を玉にす』です。みなさんも是非「苦労することが分かっている次のステップ」に足を踏み入れる勇気を持てる一人ひとりであってほしいと思います。苦労することが分かっていれば、できれば避けたいというのは、誰でも抱く人の感情です。だけれども、みなさんにとって将来大きな物事を成し遂げる礎になる『力』がこの「苦労する」なかで育まれると思います。

新しい年度が始まります。315 名の新入生を迎え、新 2･3 年生とともに新たな瀬谷中学校の歴史を築いていきたいと思います。みなさんも今年度を迎えるにあたり、目標も高く掲げ、突風に身をさらし、希望という帆を高く掲げ、成長を感じることができる１年であってほしいと願っています。

平成３１年度　横浜市立瀬谷中学校　職員組織

○印は本年度着任職員です。

	１　年	２　年	３　年		
生徒	315名	297名	331名	校長	熊野　一隆
主任	佐々木　雄司	永井　真樹	北島　康弘	副校長	○村上　直幸
１組	鵜澤　海	猪股　誠	原　昌輝	教務主任	中田　俊彦
２組	志賀　友加里	山田　優美	今井　順子	生徒指導専任	大川　聡
３組	渡部　晴子	井上　郷子	戸村　瑚織留瞳	養護教諭	大久保　朝美
４組	松原　桂	西塚　和浩	青田　一彦	養護教諭	○山口　友実
５組	山中　裕太	大畑　朋靖	照本　華	事務	椿　香織
６組	曽根原　靖高	與野　幸奈	○神崎　政雄	事務	○塩野　民恵
７組	井上　仁	近藤　匠	成島　昌子	学校用務員	浅尾　隆正
８組	戸倉　正晴	百田　知永	山本　美香子	学校用務員	真仁田　良
９組			高瀬　元樹	AET	ニコレット スペンサー
11組	○児玉　涼介　○小川　浩己　望月　和幸 鈴木　隆史　米谷　彩　伊藤　眞理子			職員室ｱｼｽﾀﾝﾄ	植田　幸恵
				学校司書	橘田　美智子
学年所属	細川　景衣 阿部　愛美 西郷　明日香 中田　俊彦 松山　隆	大久保　和美 藤井　優 岡　さおり 橘　小百合 林　高弘	山田　玲子 安藤　枝里子 宮川　勉 (進路指導主任) 原　厚子 （特別支援コーディネーター） ○齊藤　眞知子	校医　内　科	天野　仁
				校医　歯　科	山之内　正己
				校医　眼　科	○和久井　登三子
				校医　耳鼻咽喉科	斉藤　大
				学校薬剤師	内山　彰

学校メール配信について

今年度もメール配信を行います。内容は、地震に伴う対応やインフルエンザなどの情報、学校行事に関するお知らせ等です。修学旅行や自然教室の様子等、学年別の発信も行います。ぜひご利用ください。

なお、横浜市では、個人情報管理の観点から、年度末に登録されているアドレスをすべて削除させていただくことになっており、新年度は再度手続きが必要になります。お手数ですが、登録をお願いいたします。詳しくは、配付文書でご確認ください。

「セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の設置について

横浜市教育委員会では「セクシュアル・ハラスメント防止に関する指針」に基づいて、すべての児童・生徒が安心して学ぶことができる学校づくりを進めています。セクシュアル・ハラスメントは相手の心を傷つけ、その後の成長に避けがたい影響を与えるものであり、個人の尊厳や人権に対する侵害行為であり、決して許すことのできない行為です。本校においても「セクシュアル・ハラスメント相談窓口」を次の通り設置いたしますので、お知らせします。

◎児童・生徒に対する行為の相談窓口担当者
- 生徒指導専任教諭　大川　聡
- 人権教育推進担当教諭　成島　昌子
- 養　護　教　諭　大久保　朝美
- 養　護　教　諭　山口　友実

◎教職員・保護者に対する行為の相談窓口担当者
- 教務主任　中田　俊彦
- 人権教育推進担当教諭　成島　昌子
- 養　護　教　諭　大久保　朝美
- 養　護　教　諭　山口　友実

◎教育委員会相談窓口（一般教育相談）
- 教育総合相談センター　TEL　０４５（６７１）３７２６～８

※セクシュアル・ハラスメント相談窓口としても利用できます。

「いじめ相談窓口」の設置について

いじめは深刻な人権侵害であり、絶対に許されない行為です。本校においても「いじめ相談窓口」を次の通り設置いたしますので、お知らせします。

◎いじめ相談窓口
- 各学級担任
- 生徒指導専任教諭　大川　聡
- 養護教諭　大久保　朝美
- 各学年主任
- 人権教育推進担当教諭　成島　昌子
- 養護教諭　山口　友実